

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成 17 年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日
所在地 〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電 話 03-5841-5839
FAX 03-5841-5898
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

現状と課題（平成 17 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999）年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各 1 に、それらを補佐する助手 1、さらにセンター教員と協力してプロジェクトを推進する客員教授 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを平成 15 年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期

待されている。

一昨年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、新規事業への取り組みをおこなった。平成17年度新規データベース・プロジェクト文献分野では、「アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト」₁、「インドネシアの更紗（パティック）図像データベース作成」₂、「中央アジアの伝統的な地域社会組織 - マハッラー研究データベース構築」₃。造形分野では、「アジア美術画像アーカイヴ」₄、「中国美術関係資料の収集とデジタル化」₅、「イスラーム美術作品画像アーカイヴ」₆、「東文研蔵アジア写真資料データベース」₇、「東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築」を実施した。継続的に活動を行った主なセンタープロジェクトとして、文献情報分野では、「貴重漢籍の補修とデジタル化」₈、「東洋文化研究所漢籍目録」₉、「西アジア近代史文献資料データベース構築」₁₀、「南アジアの言語の辞書デジタル化」₁₁、「東京大学附属図書館所蔵南アジア写本のデジタル化」₁₂、「英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデジタル化」₁₃。研究情報プロジェクトでは、「アジアの世論調査の現状と展望（アジアバロメーター）」₁₄、「アジア研究情報ホームページ（Gateway）」があり、その成果の一部をセンターのウェブサイト上で公開した。さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。（個別のプロジェクトについては別表参照）

成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』二点を刊行した。全国文献・情報センター長会議への参加やセミナーの主催をはじめ、学内外の関係機関との交流を深めた。

東アジア研究の促進事業は、2003年のASEAN+3ミーティングで、日本が提唱し、承認されたことから、2004年度に開始された事業である。実施に当たり、外務省アジア太平洋州局地域政策課の依頼によって東文研が日本の幹事機関となり、東洋学研究情報センターがこの業務を所管することになった。2005年1月にASEAN+3の13カ国（日本を含む）とAUN: ASEAN University Networkの研究者を招き、2日間のミーティングを行い、NEAS: Network of East Asian Studiesという組織を立ち上げ、本年度は、東文研とシンガポール大学が幹事機関を務めた。また、2006年2月16日から17日にはMALASIA Putrajayaで、第二回東アジア研究促進ネットワーク会合を開催し、11カ国17団体が参加された。さらに、海外の関係機関との交流にも努めてきている。

A 人員・施設

1. 教職員

研究情報センター長	教授	小川 祐充
研究情報センター	教授	丘山 新
	助教授	ティムール・ダダバエフ
	助教授	柘屋 友子
	助手	保城 広至
	客員教授	猪口 孝
業務掛	係長	笠井 伊里

2. 施設

現在面積

事務室	64	平方米
作業室1	24	〃
作業室2	48	〃
計	136	平方米

B 本年度実施状況

1. センタープロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し，実施している。

重点プロジェクト.....センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト.....重点プロジェクトに移行することを目的として，試行的に実施するもの。

一般プロジェクト.....センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

重点プロジェクト

1 貴重漢籍の補修とデジタル化 / 丘山

[文献]

全体計画

東洋文化研究所には漢籍約8万点が所蔵されるが、なかでも537件は学術・文化的に非常に貴重な資産である。この貴重漢籍を将来にわたって保存することを目的とし、一般利用・公開のためにすべてをデジタル化して、ネットワーク上で公開する。現在、国内外の研究機関や図書館で公開されている展示用の漢籍の画像データベースと異なり、本格的な研究に資するデータベースを構築する。また、一部痛みの激しいものは、早急に補修する。

今年度の進捗状況

今年度は、科学研究費補助金に加え、特別教育事業費を資金として、東洋文化研究所所蔵の貴重漢籍4万コマのデジタル化とデータベース化をおこなった。昨年度からの総計では、約10万コマが公開されている。

なお、平成17年12月に東洋文化研究所図書室が開催したアジア古籍保全 講演会・ワークショップにて、本研究所の漢籍デジタル・データベース化の報告をおこなった。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2 西アジア近代史文献資料データベース構築 / 長澤

[文献]

全体計画

西アジアのアラビア文字近代史文献資料のデータベース化を進める。具体的には西アジア近代史の基礎資料である公的刊行物（官報・議会資料・地誌・法制史資料など）を取り上げ、これらの資料の様式と特徴、また利用方法についての研究を行い、電子情報入力と整理を行い、検索システムを設計し、データベースを構築する。

今年度の進捗状況

本年度は、昨年度に立ち上げ公開した『エジプト新編地誌』検索データベース（カイロ編）に、カイロ以外の村落編の部分について索引を追加入力し、データベースの完成に向けての作業を行なった。この追加入力データは本年度でほぼ終わったことから、これらデータを加工しプログラムの修正を行い、改訂版の公開を来年度目指す。

成果物 [予定][Web 公開]

エジプト新編地誌データベース
http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
2004年10月より公開。

3 アジア美術画像アーカイヴ / 小川

[造形]

全体計画

当研究所では、この60年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮20万点に及ぶ。本プロジェクトは、これを中核として、東南アジア彫刻スライド資料2万点など、新たなものを加えるとともに、さらに工芸分野にもわたる調査・撮影旅行を実施して、総合的なアジア美術画像アーカイヴの構築を目指すものである。

今年度の進捗状況

本年度実施し得た東南アジア調査は、シンガポールのみに止まる。ただ、新たにオーストラリア調査を実施し、中国絵画・日本絵画の調査・撮影を行うとともに、全体計画達成のため、関連資料などの収集を行った。また、東南アジア彫刻スライド資料2万点のデジタル化、及び基本カード打ち出しを終え、データ書き込み中である。

具体的な成果物

公開済みのもの：なし。

4 中国美術関係資料の収集とデジタル化 / 板倉

[造形]

全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。今年度以後は、今年度より始まるアジア美術プロジェクトの中心をなすものとして、東南アジアのうち、中国美術との関わりの密接な地域のそれに注目し、その作品データの収集をも行うこととする。その上で、アジア諸地域における美術の様相を比較・検討していく基礎とする。

今年度の進捗状況

今年度も引き続き継続して写真のデジタル化を進め、公開中の中国絵画所在情報データベースのデータの修正を行った。又、東アジア美術研究室のホームページ内で「東アジア絵画史研究文献目録」の一部を試験公開した。

具体的な成果物 [Web 公開]

中国絵画所在情報データベース <http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.asp> 公開中
東アジア絵画史研究文献目録 <http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/bunken.html> 2006年2月公開。

5 イスラーム美術作品画像アーカイヴ / 榎屋

[文献]

全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術の調査研究を行って収集した画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追及と形成がいかに美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

今年度の進捗状況

連合王国ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館およびアメリカ合衆国ホノルルのドリス・デューク・イスラーム美術財団が所蔵するイスラーム期ペルシア・タイルの写真を整理し、その銘文を解読して、205点をデータベースに入力した。

具体的な成果物

蓄積データ数が少なく、美術館および美術財団所蔵品の画像については著作権の問題があるため、公開形態も含めて検討中である。

6 東文研蔵アジア写真資料データベース / 平勢

[造形]

全体計画

当研究所が戦前以来今日にいたるまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究写真資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

今年度の進捗状況

『東文研蔵アジア写真資料集成データベース』を立ち上げ、「山本讃七郎写真ガラス乾板DB」、「清朝建築図様デジタルアーカイヴ」、「魏書データカード写真DB」、「植民地期ビルマの土地関係資料写真DB」を公開。

具体的な成果物[データベース]

『東文研蔵アジア写真資料集成データベース』（<http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/>）
2006年3月31日公開。

7 東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築 / 榎屋

[造形]

全体計画

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター管理の「東京大学インド史跡調査団写真資料」は、1999～2001年「インド・イスラーム史跡データベース」(中里、深見)、2002～2004年「イスラーム地域造形資料データベース構築」(榎屋)を通じてデジタル化、データベース構築が進行されてきたが、6×6ネガ約1,200カット、35ミリネガ約2,000カットのデジタル化、データベースへのアップが残っている。現在失われた史跡も多く含んだこの貴重な写真資料がより多くの研究者の利用に供することができ、資料の劣化を克服できるよう、作業の完遂をめざす。

今年度の進捗状況

6×6白黒ネガ2186点のデジタル化を外注によって行った。あわせて、35mmカラー・スライド2459点のデジタル化を外注によって行った。デジタル化の方式を従来のコダック・フォト・CDからTIFF形式に改めたために、予算内で当初の計画よりも数多くのフィルムをデジタル化することができた。人員雇用によって、35mm白黒ネガ1000点をデジタル化した。なお、撮影対象との同定については、6×6白黒ネガ、および35mm白黒ネガについてはエクセルにファイル化を行った。

具体的な成果物 [Web公開]

インド・イスラーム史跡データベースに5500点のデジタル化フィルムの追加、2006年3月公開する予定。

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml>

デリー検索データベース、2005年5月より公開

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/newsearch.html>

全体計画

平成17年度には、南アジアと中央アジアに焦点を当てる予定である。年度内に、現地世論調査会社との調整をした上で、世論調査を実施する。そのデータを海外協力者と分析し、最終的に英語版（SILGO 出版）と日本語版（明石書店）の本を出版する。海外協力者を招き、東京で質問表作成ワ - クショップと分析ワ - クショップを開催する。

今年度の進捗状況

平成17年度調査対象の国は中央アジア諸国のウズベキスタン、タジキスタン、キルギスタン、カザフスタン、トルクメニスタンとアフガニスタン；南アジア諸国のインド、スリランカ、パキスタン、バングラデッシュ、ネパール、ブータンの国々が対象とした。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/>

『アジアバロメーター 都市部の価値観と生活スタイル』（猪口孝、ミゲル・バサネズ、田中明彦、ティムール・ダダバエフ編著）

Human Beliefs and Values in Striding Asia (Takashi Inoguchi, Akihiko Tanaka, Shigeto Sonoda and Timur Dadabaev 著)

以上の2点を刊行した。

アジア・バロメーターの公開シンポジウム（2006年2月24日）を開催した。

全体計画

日本のアジア研究に関する情報を収集・発信するとともに、世界に開いた日本のアジア研究情報の窓口となるウェブサイトを構築し、運営する。日本の基本情報を提供する拠点となり、また研究者に最先端の研究動向や各種の研究情報を相互に交換する公的な情報交換の場となることを目指す。

今年度の進捗状況

今年度は、夏季に公開された英語版サイトの構築を中心に、日本語版ホームページの内容と情報の充実と拡大に重点を置いた。英語版サイトのコンテンツは、主に、研究エッセイ、日本のアジア研究（日本のアジア研究機関、日本で出版された英文のアジア研究一覧、日本の大学でアジア研究するためのガイドや留学生向けのサイト集、アジア研究図書館）世界のアジア研究（世界の主要研究機関、アジア諸国の図書館ガイド）からなる。

英語版では、サイトをユーザーにむけ、より使いやすく見やすいものにするため Top ページをはじめとする大幅なデザイン修正を行った。また、更に正確な情報を供給するための情報の追加、変更をした。更新したコンテンツは以下の部分に当たる。

研究エッセイ、日本のアジア研究（留学生のためのサイト集、各研究所の紹介文、リンク先）世界のアジア研究（図書館ガイド - 内容筆者達からの要請により変更、世界の主要研究機関リンク先）

また、同じく日本語版の方も情報の充実化を図るために、論集、アジア学の最前線に、若手研究者達のエッセイを掲載し、研究会情報にも週一回以上のペースによる最新情報の定期的な更新を行った。また、日本のアジア研究機関、世界のアジア研究機関を

修正・追加した。

具体的な成果物 [データベース]

英語版 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/index.html>

以下修正・追加したもの

エッセイ <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/essay.html>

留学生のためのリンク集 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/studya.html>

日本のアジア研究 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/institution.html>

世界のアジア研究 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/link.html>

日本語版

以下修正・追加したもの

論集、アジア学の最前線 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/asw.html>

日本のアジア研究機関 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/collect/category/linkj.html>

世界のアジア研究機関 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/collect/category/linkw.html>

研究会情報 <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/information.html>

試行プロジェクト

10 ダイバーコレクションのデジタル化 / 鎌田

[文献]

全体計画

本研究所所蔵のアラビア語を中心とする写本集成であるダイバー・コレクションの冊子体カタログをデジタル化し、検索に便ならしめるとともに、写本自体をデジタル化して保存・利用に資することを目標とする。写本資料の利用が簡便になることで、テキストの出版がかならずしも十分でない西アジアの文献研究を大いに補完することをねらっている。

今年度の進捗状況

コレクション（Ⅰ）の高解像度のデジタル画像を画像技術室および外注にて作成した。またコレクション（Ⅱ）については既存のマイクロフィルムからのデジタル化を完了し、さらに冊子体カタログのテキストと写本の画像をウェブ公開に相応しい形態に加工し、両者を組み合わせたデータベースの作成を完了した。アラビア文字およびラテン文字によるカタログの検索と、そこから該当写本の画像の閲覧が可能となり、世界的にもユニークなデータベースとなった。

具体的な成果物[Web 公開]

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html

にて 2006 年 3 月より公開。

11 東京大学附属図書館所蔵南アジア写本 / 永ノ尾

[文献]

全体計画

趣旨、全体計画：東京大学附属図書館はサンスクリット語、チベット語の写本を多く所蔵している。サンスクリット語の写本はすでにマイクロフィルムになっている。これを CD にして、最終的にネット上で画像として見ることができる、検索システムを含むデータベースを構築し、公開する。

今年度の進捗状況

平成 16 年度にはマイクロフィルム 50 リールを CD にした。また、検索システムのモデ

ルを作った。今年度は残りのリールを CD にした。所蔵されているサンスクリット写本の全体のカatalogがすでに作られている。そのカatalogを入力して、検索が可能な状態にした。それらを使いデータベースを完成させた。

具体的な成果物 [Web 公開]

東京大学総合図書館所蔵南アジア・サンスクリット語写本データベース (URL) <http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp> 2006 年 4 月より公開。

12 Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト / 永ノ尾

[文献]

全体計画

現存するサンスクリット文献資料とそれに対応するチベット訳文献資料を電子データ化し、両者を構文レベルで対照させる。さらに、利用者の入力した原典未詳のチベット文 (= 検索キー) と類似するデータを蓄積データの中から選び出し、チベット語・サンスクリット語構文対照の形式で出力するサーバを構築する。

今年度の進捗状況

サンスクリット原典の現存する以下の各資料につき、チベット訳資料との構文対照データを作成し、検索用サーバに搭載した。

資料名	サイズ(バイト)	シラブル数
VimalaprabhA	65,159	6,250
SaddharmapuNDarika (法華経)	24,356	2,127
SuvarNaprabhAsa (金光明経)	103,106	8,011
UdAnavarga	328,071	17,753 (完成)
NyAyabinduTika	74,651	8,169
ASTasAhasrikAprajJApAramitA (八千頌般若経)	73,192	7,867
合計	668,535	50,177

表 1 平成 17 年度作成データ (平成 18 年 3 月 11 日現在)

具体的な成果物 [Web 公開]

- (1) eDic の Web サイト <http://suzuki.ypu.jp/edic/>
- (2) eDic の検索サイト <http://www-asia.human.is.tohoku.ac.jp/demo/eDv/html/>
検索サイトの利用状況 平成 17 年度計 2,636 回 (平成 18 年 3 月 12 日現在)
- (3) 相場徹, 生出恭治(2005): 「東洋古典電子テキストの利便性向上にむけて「Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書 eDic」閲覧システムの構築を通じて」, 『人文科学とコンピュータシンポジウム 論文集 デジタルアーカイブ その理論の深化と技術の応用』, pp. 201-208.

13 中世ペルシア語辞書作成 / 永ノ尾

[文献]

全体計画

中世ペルシア語辞書の作成の他に、東洋文化研究所に荒木茂イラン学文庫を設置する計画を追加・実行した。

今年度の進捗状況

中世ペルシア語辞書作成については、ローマ字転写、意味、出典の入力を完了した。

項目総数は、約 10000 になった。残るパフラヴィー語表記と解説部分の入力を、手作業で行うか写真版で取り込むかの二者択一で迷っている段階である。

また、荒木茂文庫の蔵書目録として、『東京大学東洋文化研究所所蔵 荒木茂文庫目録』を作成した。

具体的な成果物 [Web 公開]

永ノ尾信悟・青木健（編）『東洋学研究情報センター叢刊 7 東京大学東洋文化研究所所蔵 荒木茂文庫目録』2006 年（予定）

14 英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデジタル化 / 高橋 [文献]

全体計画

東洋文化研究所には通称チッティーサージョウツと呼ばれる植民地期ビルマにおいて作成された手書きの土地・借金文書が 5,000 部ほど所蔵されている。本プロジェクトはこれまでのビルマ経済史研究の中で全く利用されることがないこの史料を整理して、デジタル化、データベース化することにある。具体的作業は、スキャナーで文書を読み取り、契約の内容(年月日、場所、当事者、抵当物件、借金額等)を英文で整理し、ファイルメーカーでフォーマットして、データベース化することである。

今年度の進捗状況

東洋文化研究所に所蔵している文書のうち、文書 471 枚をスキャナーで読み込んでデジタル化した。さらにこれらの文書一枚一枚について、書かれた年月日、場所、貸し手と借り手あるいは売り手と借り手といった当事者、農地の種類、面積、場所、価格（質入の場合は貸与金額）、質入期間、買い戻し条件、質流れの条件、証人等について細かく分類し、エクセルでデータベースを作成した。

具体的な成果物[Web 公開]

上記文書と写真 10 枚とを結び付けて、平勢写真科研と一緒に公開予定。

15 アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト / 鈴木 [文献]

全体計画

古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館構築にあって、アジアの主要地域に 3 つの文字圏として捉え得ることに鑑みれば、各文字圏についてポリグロット・グロサリーを作成し、常に利用しうる体制としておくことは、それ自体が多言語による電子図書館のレファレンス部門として不可欠の意味を持つとともに、古籍研究自体にとっても強力な武器となるであろう。ここで、アジアの 3 大文字圏中、とりあえずアラビア文字圏を対象として、ポリグロット・グロサリー作成に取り組むこととしたい。

今年度の進捗状況

本年度は、アラビア語・ペルシア語・オスマン語・トルコ語の基本的辞書のデジタル化作業を行った。これと並行して、アラビア語・ペルシア語・トルコ語の最も基本的な辞書の見出し語を、アラビア文字のアルファベット配列に基づきつつ、コンピューターに入力する作業を進めてきた。また、CD 化した辞書を加工してポリグロット・グロサリーとして編集するための基礎作業についても、その手法を確立すべく、試験的作業を進めつつある。

具体的な成果物

なし。

16 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化 / 平勢 [造形]

全体計画

我が研究所には、先後旧東方文化学院から移管された資料が多数ある。図書資料以外に、考古資料も少なからずある。貴重な研究資料でありながら、現在にいたるまで十分な整理がなされてきていない。本プロジェクトは、その整理をすすめて研究資料としての価値をより高めることを目的とする。その目的に沿い、考古資料のデジタル化を進める。

今年度の進捗状況

明治30年から戦前までの北京・雲崗・龍門を撮影した写真ガラス乾板891枚の内容を調査整理し、JIS K7644:2004 (ISO 18918:2000)規格に基づく中長期保存措置を講じて資料庫に保存した。また『震旦旧蹟圖彙』（山本写真館発行、昭和10年）、鳥居龍造撮影の「満蒙の有史以前と遼代契丹人の文化に就いて」の調査写真、関野貞寄贈中国拓本22点のデジタル画像化を行い、画像のリストを作成した。

具体的な成果物

『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 - 明治の営業写真家 山本謙七郎写真資料目録その1 -』（平勢隆郎・井上直美・河村久仁子編、センター叢刊6、2006年3月刊行）。

一般プロジェクト

17 ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料 / 永ノ尾

[文献]

全体計画

ヴェーダ文献とポスト・ヴェーダ期の儀礼文献が伝えるさまざまなレベルの儀礼に関する情報を項目別に分類整理して収集し、儀礼研究の基本資料を作成する。毎年、授業や研究発表のために読む文献から、それらの情報を蓄積していく。

今年度の進捗状況

「蛇の恐れを除く儀礼」に関して主としてヴェーダ文献の情報を収集した。「合戦儀礼」の情報をアタルヴァヴェーダ系統の文献を中心に収集した。ヒンドゥー教の Tantra 文献および仏教の密教文献の儀礼に関する情報を引き続き収集した。その結果75,390行、14,265,549バイトのデータベースになった。

具体的な成果物

公開済みの（または予定の）具体的な成果物、特になし。

18 東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース / 大木

[文献]

全体計画

東京大学東洋文化研究所が所蔵する約8万点、25万冊に及ぶ漢籍について、その書名・撰著者名をはじめその他の詳細な書誌項目を含めた目録情報のデータベースである。

今年度の進捗状況

本年度も引き続き科学研究費補助金（研究成果公開）を受け、事業を進めた。本年度は、續修四庫全書の子目など、約7千件を追加入力し、また巻首カラー画像1千件を追加入力した。

なお、漢籍目録総合データベースに関する台湾国家図書館との協力が合意され、平成18年度に共同運用を始める予定である。

具体的な成果物

なお平成17年度よりデータのユニコード化を実現した。

19 インドネシアの更紗(バティック)画像データベース作成 / 関本

[造形]

全体計画

申請者はこれまで、アジアにおける地場産業・伝統技能の研究の一環として、インドネシアの更紗製造業調査を続けてきた。いま手元にある更紗布地約300枚について情報を公開したいので、図像データベースを作る。300枚のなかには美術工芸的に興味深いものも、そうではないが更紗製造業の多様性の資料として意味のあるものもある。この両者を対象にする。(変更点)当初予定の300枚の内、記録に値するものに絞り約150枚とする。

今年度の進捗状況

ジャワ更紗布地147枚を産地ごとに分類整理し、製作年代、サイズ、色、柄を記した目録を製作した。当初は撮影に入る予定だったが、布を扱える能力を持つRAが見つからなかったため、関本が一人で作業を行い、本年度は整理と記録だけに終わった。

具体的な成果物

まだない。

20 江戸・明・古代プロジェクト / 平勢

[研究情報]

全体計画

我が国を含めた伝統中国学に大きな影響を及ぼした明代、その明代の影響を深く受けた江戸時代、伝統中国学が理想化した中国古代に焦点をあて、伝統中国学のもつ性格をさまざまな角度から検討する。

今年度の進捗状況

科研はすでに修了し、本年はすでに作り上げたシステムを維持しつつ検討を進めた。

具体的な成果物

<http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html>

21 データベース 20世紀・21世紀年表 / 田中

[研究情報]

全体計画

データベース「世界と日本」においてすでに公開している「データベース 20世紀年表」(1900-1999年)の収録期間を21世紀にまで延長し、平成17年度には、2002年までの年表データを収録することを目的とする。年表データは、日本と世界でおきた重要な出来事について、その日時と出来事の概要を表示データとして、さらに検索のためのデータとして関連国名などを非表示データとして持つデータである。21世紀にまで期間が延長される結果、データベースの名称も「データベース 20世紀・21世紀年表」と変更される。

今年度の進捗状況

これまでのデータベース20世紀年表には、すでに1900年から1999年にかけての185,176件の年表データが収録され公開されているが、平成17年度は、約2万件のデータを追加し、2000年から2002年までの3年間のデータを完備した。

具体的な成果物

データベース「世界と日本」

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html>

2. 公開・発信

(a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成10年度～平成16年度の事業報告、平成10年度～平成17年度の漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、15年度立ち上げた研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」も、16年には英文サイトを増設し、公開情報の更新を行ってきた。

(b) 研究成果・データベースの公開

4月には、東洋文化研究所所蔵「漢籍データベース」がUnicode版となった。新設されたアジア古籍電子図書館と東洋文化研究所所蔵アジア写真資料集成データベースには、「漢籍善本全文画像データベース」と共に「アラビア語写本ダイバーコレクション」、「サンクリット語写本」、「明代画像資料三才図会」と、「インド・イスラーム史跡写真データベース」、「山本謙七郎写真ガラス乾板データベース」、「清朝建築図様デジタルアーカイブ」が加わり、新たにサービスを開始し、貴重資料の公開範囲をさらに充実させた。

なお、平成17年4月1日から平成18年3月31日までのセンター関連サイトのアクセス数は下記のとおりである(判明するもののみ)。「貴重漢籍善本全文画像」3,958,702件、「東洋文化研究所所蔵漢籍目録」911,637件、「朝鮮族譜」と「近代朝鮮関係書籍」107,884件、「中国近現代文学関係雑誌記事」と「中国語雑誌」21,486件、「南アジア文献検索」5,813件、「インド・イスラーム史跡建築」16,310件、「イスラーム事典」55,078件、「データベース世界と日本」2,035,831件、「江戸・明・古代プロジェクト」9,238件、「エジプト新編地誌」3,974件、「東文研所蔵タイ語書誌」9,051件であった。

(c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

(d) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第14～15号(完全英語版)を刊行し、全てのバックナンバーのpdfファイルをホームページ上で配布している。東洋学研究情報センター叢刊第6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録』、アジアバロメーター2004年世論調査の成果をもとにした本『アジアバロメーター 都市部の価値観と生活スタイル』(猪口孝、ミゲル・バサネズ、田中明彦、ティムール・ダダバエフ編著)を刊行した。

(e) 漢籍整理長期研修

平成17年度は6月20日～9月9日に実施し、10名が受講した(日程及び受講者名簿は25～26頁を参照されたい)。6月20日～25日の1週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の院生4名が受講した。

(f) 平成17年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

当センターを含む5つの文献・情報センターが過去13回共同開催してきたが、16年度から、各センターが個別に企画・開催することになった。2月24日に日本外国特派委員協会において、当センタープロジェクト「アジア・バロメーター」に関するシンポジウムを中央大学と共催で実施した。

3. 平成17年度全国文献・情報センター長会議(第41回)

今年度は、東京大学大学院法学政治学研究科附属外国法文献センターが当番校で、2月10日(金)に東京大学法学部4号館会議室で開催された。

C 新年度の事業目標

平成18年度は、昨年度より始めたセンター事業に対する抜本的な再検討を継続する一方、センター経費に加えて、新たに外部資金を導入するなど、一昨年平成16年度より改めた点は継承しつつ、既存の事業の整理・統合を実施し、新規事業を展開する。

第一に、センター事業の基軸をなすセンタープロジェクトのうち、文献資料分野においては、従来どおり、古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館の構築というグランドデザインのもと、アジア各地域の多言語資料を順次データベース化し、その公開を継続的に実現してゆく。センター経費に加えて科学研究費補助金をも投入するこの事業の重点は、研究蓄積が進んでいる東アジアの漢籍資料に置く。また、造形資料分野においては、新規事業の第二年度として、やはり科学研究費補助金とセンター経費とを基盤として、従来から継続してきた中国絵画のそれを中核とするアジア美術画像アーカイブの構築をさらに推進する。また、文献・造形両資料分野にまたがるものについては、これまでの成果を踏まえつつ、昨年度より獲得している科学研究費補助金を投入して、さらに東洋文化研究所所蔵写真資料のデータベース構築を推進する。なお、本項目で言及したプロジェクトに関わる個別のプロジェクトについては、別表を参照されたい。

第二に、平成15年度から開始した新しい型の研究情報プロジェクトについては、アジア・パロメーターの一層の充実を目指す。また、同年のASEAN+3首脳会議で合意された東アジア研究者ネットワークの構築事業の事務局を担当する。

第三に、研究所内外の研究成果の公開・発信事業としては、同じく平成15年度から開始したアジア研究情報ゲートウェイを維持・発展させ、翌19年度からは、時限プロジェクトではなく、センターの恒常的な事業として位置づけるべく、組織などの変更を開始する。また、これまで四半世紀にわたって継続してきた漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』、及び内外の研究者を編者に迎えて、東洋学関係の各種資料を公開する『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行する。さらに、全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流を促進する。特に最後の件に関する問題として挙げられるのは、大学院法学政治学研究科外国法文献センターが、同研究科附属諸センターの統廃合に伴い昨年度をもって廃止されたため、全国文献・情報センター長会議の枠組が従来の5センターから4センターになったことであり、その事態に如何に対処してゆくかである。

改めて言うまでもなく、上記に述べた積極的な事業展開のためには、センター経費だけでは不十分である。昨年度に引き続き、科研費などの競争的経費を獲得して各種事業を展開するとともに、安定的な資金の確保をも模索したい。また、センタープロジェクトの発展に伴い、作業スペースを拡大するとともに、各種データベースや文献・造形資料などの公開スペースを確保することも、センター改組・拡充以来の重要な課題である。

なお、当研究所建物が耐震性に問題を抱えているのは周知のとおりである。本年度に耐震工事のための概算要求、次年度に工事実施とそれに伴う疎開の予定であり、各事業の推進についても、相当な齟齬を来すことが危惧されるものの、センターの全力を結集してこの難局に対処してゆく所存である。各方面に協力方をお願いする次第である。

これまでのセンター校費プロジェクト一覧

	プロジェクト名 / 担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	
1	現代中国書データベース / 岡本	セ	[一般]						国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築 / 鈴木（隆）	セ	[一般]						Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書を公開（現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置）。 http://suzuki.ypu.jp/edic/
3	内蒙古出土学術資料のデータベース化 / 後藤	セ	重点	重点					データベースを所内限定公開。2003年横浜ユーラシア文化館、2004年古代オリエント博物館に資料を出陳。
4	インド・イスラム史跡データベース / 中里，深見	セ	重点	重点					データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml No.13 に発展的に継続。
5	東アジア族譜データベース / 宮島	セ	重点	重点					データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm
6	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化 / 高見沢，丘山，尾崎	セ	重点	重点	重点				東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
7	中国絵画デジタルアーカイヴプロジェクト / 板倉，小川	セ	重点	重点	重点	重点			データベースを試験公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ No.19 に発展的に継続。
8	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化 / 尾崎		試行	試行	試行	試行			データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmqz.html No.23 に発展的に継続
9	在外日本企業作成資料のデータベース化 / 濱下			試行	重点	試行	試行		

	プロジェクト名/担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	
10	『アジア・バロメーター』/猪口・田中				重点	重点	重点	重点	ウェブサイトを公開。 http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/ 刊行物：『アジアバロメーター 都市部の価値観と生活スタイル』 『 Human Beliefs and Values in Striding Asia』
11	東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化/大田				重点	重点	重点		刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第4輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』2004年、 『東京大学東洋文化研究所所蔵 清朝建築図様図録』2005年。
12	イスラーム地域文献資料データベース構築/長澤				重点	重点			No.18 に発展的に継続。
13	イスラーム地域造形資料データベース構築/榎屋				試行	試行	試行		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml No.38 に発展的に継続
14	貴重漢籍の補修とデジタル化/丘山					重点	重点	重点	「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文映像資料庫」として、 http://neworiens.ioc.u-tokyo.ac.jp/kanziim/ で公開。
15	アジア研究情報ホームページ/長澤・小川					試行	重点	重点	ウェブサイトを公開。 http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/
16	ダイバーコレクションのデータベース化/鎌田					試行	試行	試行	ウェブサイトを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html
17	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化/高橋					試行	試行	試行	

	プロジェクト名/担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	
18	西アジア近代史文献資料データベース構築/長澤						重点	重点	データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
19	中国絵画資料の収集とデジタル化/板倉						重点		続編データをアップし公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ No.20 に発展的継続。
20	中国美術関係資料の収集とデジタル化/板倉							重点	データベースを公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/
21	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化/永ノ尾						試行	試行	サンスクリット語写本データベース (URL) http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp 2006年4月より公開。
22	南アジアの言語の辞書のデジタル化/永ノ尾						試行		
23	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス/尾崎						試行		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/
24	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築/池本						試行		データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html
25	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化/平勢						試行	試行	センター叢刊6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録』

	プロジェクト名/担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	
26	中央アジアの伝統的な地域社会組織 マハッラー研究データベース構築/ダダバエフ						試行	一般	『東洋文化研究所紀要』第166冊100-149p. 出版物:『マハッラーの実像』
27	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト/永ノ尾						試行	試行	検索サイト: http://www-asia.human.is.tohoku.ac.jp/demo/eDv/html/
28	中世ペルシア語辞書作成/永ノ尾						試行	試行	
29	東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成/尾崎					一般	一般		http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html に反映。
30	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース/大木	一般	データベースを公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html						
31	江戸・明・古代プロジェクト/平勢			一般	一般	一般	一般	一般	データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html /
32	ヒンドゥー儀礼基礎資料作製データベース/永ノ尾						一般	一般	
33	戦後日本政治・外交データベース/田中						一般		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html
34	データベース20世紀・21世紀年表/田中							一般	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html

	プロジェクト 名/担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	
35	アジア美術画 像アーカイヴ /小川							重点	
36	イスラーム美 術作品画像ア ーカイヴ/榎 屋							重点	
37	東文研蔵アジ ア写真資料デ ータベース/ 平勢							重点	データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/
38	東京大学イン ド史跡調査団 写真資料のデ ジタル化およ びデータベー ス構築/榎屋							重点	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/
39	アラビア文字 圏ポリグロッ ト・グロサリ ー・プロジェクト/ 鈴木							試行	
40	インドネシア の更紗(パティ ック)画像デー タベース作成 /関本							一般	

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002 .
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003 .
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004 .
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004 .
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005 .
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 2006 .

東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度)1968 .
- 第2輯 清代地方劇資料集(一)1968 .
- 第3輯 清代地方劇資料集(二)1968 .
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969 .
- 第5輯 郁達夫資料 1969 .
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度)1970 .
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上)1970 .
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中)1970 .
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下)1970 .
- 第10輯 李大釗文献目録 1970 .
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970 .
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970 .
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971 .
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一)1971 .
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(1)1972 .
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(2)1972 .
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(3)1972 .
- 第18輯 郁達夫資料補篇(上)1973 .
- 第19輯 切韻残卷諸本補正 1973 .
- 第20輯 目録学 1973 .
- 第21輯 花間集索引 1974 .
- 第22輯 郁達夫資料補篇(下)1974 .
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一)1975 .
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976 .
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(二)1976 .

- 第 26 輯 民国以来人名字号別名索引 1977 .
- 第 27 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (一) 1978 .
- 第 28 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (三) 1978 .
- 第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978 .
- 第 30 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (四) 1979 .
- 第 31 輯 儀礼疏攷正 (上) 1979 .
- 第 32 輯 儀礼疏攷正 (下) 1979 .
- 第 33 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (五) 1980 .
- 第 34 輯 小説月報 (1920 - 1930) 總目録 1980 .
- 第 35 輯 コミンテルン定期刊行物 中国關係論説・記事索引 1981 .
- 第 36 輯 魯迅文言語彙索引 1981 .
- 第 37 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (二) 1981 .
- 第 38 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (三) 1982 .
- 第 39 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (六) 1983 .
- 第 40 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (上) 1983 .
- 第 41 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (四) 1983 .
- 第 42 輯 校合本 大越史記全書 (上) 1984 .
- 第 43 輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984 .
- 第 44 輯 校合本 大越史記全書 (中) 1985 .
- 第 45 輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985 .
- 第 46 輯 宋之間詩索引 1985 .
- 第 47 輯 校合本 大越史記全書 (下) 1986 .
- 第 48 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (下) 1986 .
- 第 49 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録 (上) 1987 .
- 第 50 輯 沈佺期詩索引 1987 .
- 第 51 輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987 .
- 第 52 輯 韓国政治エリート研究資料 - 職位と略歴 - 1987 .
- 第 53 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (五) 1988 .
- 第 54 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録 (下) 1988 .
- 第 55 輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 - 六朝隋唐宗教・思想資料 - 1988 .
- 第 56 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (六) 1988 .
- 第 57 輯 郁達夫資料總目録附年譜 (上) 1989 .
- 第 58 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (七) 1989 .
- 第 59 輯 郁達夫資料總目録附年譜 (下) 1990 .
- 第 60 輯 山西票号資料 書簡篇 (一) 1990 .
- 第 61 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (八) 1990 .

- 第 62 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目 (九) 1991 .
- 第 63 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引
1992 .
- 第 64 輯 許壽裳日記 (自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日) 1993 .
- 第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 1995 .
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 (書名・人名索引)
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 (書名・人名通檢)
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977 .
- 別輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981 .
- 別輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982 .
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982 .
- 別輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982 .
- 別輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983 .
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録 (一) - 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』 - 1983 .
- 別輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984 .
- 別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984 .
- 別輯 11 中国經濟關係雑誌記事総目録 (二) - 『國際貿易導報』 - 1985 .
- 別輯 12 中国經濟關係雑誌記事総目録 (三) - 『中行月刊』 - 1985 .
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録 (A Catalogue of the Articles in Tijdschrift
voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985 .
- 別輯 14 中国經濟關係雑誌記事総目録 (四) - 『銀行週報』(上) - 1987 .
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 - 山西省出土文字資料 - 1988 .
- 別輯 16 中国經濟關係雑誌記事総目録 (五) - 『銀行週報』(下) - 1989 .
- 別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (ヨーロッパ編) 1992 .
- 別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994 .
- 別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994 .
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995 .
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997 .
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998 .
- 別輯 23 天津史文献目録 1998 .
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999 .

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成17年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月20日(月)	9:30～ 10:00	開講式 オリエンテーション		田中明彦 (東洋学研究情報センター長) 小川裕充 (東洋学研究情報センター主任)	
	10:00～ 15:00	漢籍版本目録概説	講義	大木康 (東洋文化研究所教授)	
	15:00～ 17:00	漢字をめぐる電腦環境について(1)	講義	平勢隆郎 (東洋文化研究所教授)	
6月21日(火)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 第一部(1)	実習	陳捷 (国文学研究資料館助教授)	
6月22日(水)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井波陵一 (京都大学教授)	
6月23日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 第一部(2)	実習	陳捷 (国文学研究資料館助教授)	
6月24日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤本幸夫 (富山大学教授)	
6月27日(月)～ 9月2日(金)		所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習		
9月5日(月)	9:00～ 12:00	漢籍整理実習 第二部(1)	実習	大木康 (東洋文化研究所教授)	
	13:00～ 17:00	東洋文庫について	講義	中善寺 慎 (東洋文庫司書)	見学を含む
9月6日(火)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 第二部(2)	実習	陳捷 (国文学研究資料館助教授)	
9月7日(水)	9:00～ 12:00	漢字をめぐる電腦環境について(2)	実習	平勢隆郎 (東洋文化研究所教授) 鷓坂智則 (総合研究博物館助手)	
	13:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と構築	講義	安岡孝一 (京都大学助教授)	
9月8日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	細井 歌寿男、長谷川 修 (宮内庁書陵部)	
9月9日(金)	9:00～ 16:30	和刻本について	講義	長澤孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
	16:30～ 17:00	修了式		田中明彦 (東洋学研究情報センター長) 小川裕充 (東洋学研究情報センター主任)	

平成17年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所属図書館	氏名
1	宮城教育大学附属図書館	いがらし ゆきこ 五十嵐 幸子
2	東京大学東洋文化研究所図書室	しおかわ ゆき 塩川 由紀
3	大阪教育大学附属図書館	まえかわ あつこ 前川 敦子
4	神戸大学附属図書館	ひらおか ひろみ 平岡 宏美
5	広島大学図書館	さんみ ともこ 三見 智子
6	琉球大学附属図書館	ちば あきこ 千葉 明子
7	駒沢大学図書館	こばやし おとえ 小林 音絵
8	成蹊大学図書館	にしだ けいこ 西田 啓子
9	二松学舎大学附属図書館	いまにし なおこ 今西 直子
10	福島県歴史資料館	やまだ ひであき 山田 英明

平成17年度東洋学研究情報センター <運営費> 決算

予算及び決算

(単位:千円)

予算費目	当初予算	追加配分	決算額	備考
研修事業	610		639	
5センター事業	450		0	
出版事業	2,070		1,430	
センター事務室の 維持管理	643		2,118	賃金含む
センター プロジェクト費	12,500		12,074	
計	16,273	0	16,261	

決算額内訳

予算費目	内 訳	決算額	備考
研修事業	漢籍講師員等旅費	153	
	漢籍講師謝金	453	
	漢籍教材費	33	
5センター事業	5センターWG 職員旅費	0	
	5センターセミナー職員旅費	0	
出版事業	ニューズレター用原稿・翻訳・校閲謝金・出版費	414	
	センター叢刊出版費	389	
	センター広報パンフ出費	158	
	通信費・封筒印刷費	388	
	東アジア研究促進報告書	81	
センター事務室の 維持管理	継続資料費(雑誌)	13	
	複写費	346	
	備品費	0	
	消耗品費	313	
	デジタル化推進経費	90	
	その他の職員・員等旅費	0	
	賃金	1,356	
センター プロジェクト	センタープロジェクト費	12,074	内訳は次ページ 参照

平成17年度東洋学研究情報センター <運営費> 決算

	計	16,261	
--	---	--------	--

平成17年度センター<運営費>プロジェクト 決算報告

(単位:千円)

件数	プロジェクト名称	担当教官	予算	決算
3	アジア美術画像アーカイブ	小川	4,643	4,865
4	中国美術関係資料の収集とデジタル化【美】	板倉	1,650	1,716
5	イスラーム美術作品画像アーカイヴ【美】	榊屋	567	411
8	アジアバロメーター	田中	2,000	1,025
9	アジア研究情報ホームページ(Gateway)	小川	1,740	2,168
15	アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト【古】	鈴木	1,900	1,889
計			12,500	12,074

複数のサブプロジェクトを統括する。【古】「アジア古籍電子図書館」、【美】「アジア美術画像アーカイヴ」の各サブプロジェクト。